

第11号
島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
2018年7月発行

<http://oushimaned.main.jp>
E-mail info@oushimaned.main.jp

第6回(2018年度)通常総会を開催



佐々所長を交えて総会参加者の皆さん

第6回通常総会

第6回通常総会は2018年4月22日(日)15:00より、島根学習センター4階「第二講義室」に於いて、委任状を含め74人(71%)の会員が出席して開催した。

司会の竹下副会長による開会の挨拶後、竹下会長は「初めて会員死去に思いを馳せてご冥福をお祈りして、設立5年が無事に経過し、念願の会員登録を三桁の100人を超過達成したが、初の会員登録更新で二桁の退会となり88人で第6回通常総会を迎えた」「活動内容も役員 노력により、HPも充実し、会員専用のメーリングリストの立ち上げでリアルタイムでの意見交換が実現できた。学習センターとの関係も良好であり、各種行事も共催で開催している。さらに地域貢献活動も公開講演会開催、新たに地域ボランティアにも参加、地域別会員・学生懇談会の開催等を確立できた」と挨拶。

続いて来賓の佐々所長より「同窓会が大きく発展することはセンターとしても大歓迎です。放送大学も今年35年を迎え、新たな取り組みにチャレンジしており、本年10月よりBSで2チャンネルが実現するため、ネットを通じて学ぶことに移行しつつある」との挨拶が行われ、同窓会活動を認識するためにと、閉会するまで傍聴された。

議長に石川副会長を選出し、議長より議事録署名人を指名した後、総会議事に移った。

第1号議案の平成29年度事業報告、第2号議案の同決算・監査報告の提案を了承し、第3号議案の2018年度事業計画、第4号議案の同予算案など全ての議案をいずれも賛成多数で承認した。

総会の詳細はお届けした議事録を参照下さい。

第11回市民公開講演会を開催

当日は恒例となった通常総会開催を前に、市民公開後援会(第11回)『国際化する消費者被害』と題して開催した。講演会には会員、在学生、市民の皆さんが聴講した。

講師は島根県環境生活部環境生活総務課消費とくらしの安全室調整監(消費者センター)田邊和佳子さんから、「経済社会のグローバル化の進展と消費生活での対応策」について、実例を基に熱く語られた。

なお、講演録については同窓会HPに掲載していますので、是非ご一読下さい。

設立6年目を迎えて

会長 竹下靖彦



会員の皆さまお変わりございませんでしょうか？

先般の第6回通常総会開催にはお世話になりました。改めて御礼申し上げます。いよいよ設立10年目を

目指し、新たな活動へと荒波を受けながら沖の目標へと漕ぎ出しました。

顧みますと、一般大学とは相違して個人学習を主とし、各種サークルも少なく、学生同士の交わりも少なく、連帯感も乏しい中での卒業生を対象とする同窓会の存在価値をどのように浸透させるのか、その為の具体的な活動とは何なのかについて悩みながら、設立に向けた準備を学習センター、学友会と共に全国の同窓会の会則を参考にして、地理的条件が良くない地方において、果たして多くの卒業生の共感を得られるのか、名ばかりの同窓会で果たして発展するのかなどなど、議論を行いながら船出をしたことを今、改めて回顧しているところです。

組織の要としての役員発掘へ

特に配慮したのが、役員が発掘について面識のない方をお願いすることになり、地域別、年代別、男女の構成等を考慮しながら、視聴室で会話した方、面接授業で会話した方を中心として、電話作戦を展開すれど役員就任を固辞される方が多い中、辛くも二桁の役員候補を発掘して事前学習を行いながら執行体制の確立の目安ができた。後は会の目的について単なる卒業生の集まりだけでなく、大学の発展に寄与しつつ社会貢献にも取り組める団体にするためにはどのような活動を想定するのか、地方を見据えた取り組みを如何に展開するのかを、役員で意思統一できたことが、設立後の活動を推進する礎となった。

5年経った結果は、当初の不安と心配を淘汰できたことは、役員による団結と意思統一が要となり、地方都市での同窓会活動の在りようを醸し出すことができた。それは役員個人が社会に係わるなかで得た知識と人脈を十二分に駆使して、幅広い活動に取り組むことができた。

社会貢献活動にも重点を置いて

設立5年を過ぎ、6年目を迎えるに際し最大の課題は、会員の再登録と会費の納入を確立することであり、5年を終えた会員64人中45人(70%)の方に再登録頂き、91人で新たなスタートを切ることができました。再登録が少ないことは同窓会に対する評価が期待通りではないことの現れであり、どのような結果となるのか心配していたのですが、70%の方が評価して下さいたことに役員一同確信を深めることができました。後は総会にて決定されました事業計画の遂行に取り組むだけです。

本年度は島根学習センター支援のみならず、社会貢献への取り組みとして、10月13日(土)に初めて島根県からの助成事業団体としての受託を受け「消費者市民社会の構築に向けて!」～地産地消と健康寿命を考える集い～の開催を島根学習センターが入居している「松江市民活動センター(ステックビル)」5階交流ホールに於いて確定しており、まさに社会貢献に打って出る年になりました。是非とも多くの会員からのご参加を頂き、盛大に開催できますようご協力をお願いします。具体的な事業案内は追ってご案内しますので、その折には是非ともご支援・ご協力をお願いします。

災害のお見舞い

この度の豪雨により被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

2018年7月

放送大学 島根同窓会役員一同

“もぐり”のすすめ

島根学習センター所長
佐々 有生



放送大学は、昨年度、インターネット等の情報技術の進展、経済の成熟や首都圏への一極集中と長寿化など、社会情勢の変化に対応すべく「Vision' 17 放送大学新時代」を掲げました。

そして、各学習センターでは、新時代への機能強化としてWi-Fi整備がすすめられ、「新しい時代、新しい私へ。」をキーワードに、本年度4月よりインターネット視聴用端末の利用を開始し、視聴用DVD・CDの貸出が本部一元化となりました。本学習センターでは、図書・視聴室にタブレットを6台設置しました。

それに加え、学ぶ立場からみた大きな改善点は、学生の皆さんのパソコンの持ち込み使用が可能となったことです。個人用パソコンの持ち込み使用には利用申請手続きが必要ですが、どれほど利用者があるか、図書・視聴室をどう活用されるかなど、これまでとは異なる学生の皆さんの学びの姿を楽しみにしているところです。

再入学する学生が減少

このように各学習センターが一つの転換の時機にある今、本学習センターにおける本年度1学期の学生数が昨年度同時期と比べて大きく減少しました。その理由は、学籍満了者が増えたのに対し、再入学する学生数はさほど増えず、入学者総数がほぼ変わらなかったからです。

そうしたとき、元大学教授の先生と懇親を深める機会がありました。先生は、過去に本学習センターの客員教員を務められており、放送大学の学びについて会話が弾みました。なかでも先生が話された「放送大学の学びに“もぐりのすすめ”」という言葉に惹きつけられました。先生のご専門分野は文系ですが、放送大学で学生と

して数学を学ばれているそうです。中・高校生の頃は、数学が得意で、今、そのことを思い起こして学び直されているそうです。先生は、放送大学の一番のよさは、在学さえしていれば、長期間、様々な科目がどれでも自由に学べることだとし、それを「もぐりのすすめ」といわれます。先生は大学勤務の時から、長年、科目履修生などで楽しく学び続けておられます。

本年度は、「もぐりのすすめ」をキーワードにして放送大学のアピールをと思い直しているところです。

平成29年度 第2学期 学位記授与式が行われました



平成29
年度第2学
期学位記授
与式が、3

月31日(土)午前11時から島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第2学期は教養学部24人、修士5人が卒業、修了され、13人が出席された。

佐々学習センター所長より学位記が卒業生修了生おひとりお一人に手渡され、そのご努力とご偉業に会場の出席者とともに大いに祝福しました。次に佐々学習センター所長から式辞があり、ポスト印象派の画家として影響を与えたポール・セザンヌを取り上げられました。

セザンヌの絵画には幾つかの秘密が存在しますが、その一つの作品が「台所のテーブル」に見られる人間がごく自然に視点を移しながら、対象を多くの視点から描いていることです。放送大学の学び、教養を見つめ直すと、ある意味でセザンヌの”多視点”を養うことだと思います。卒業生の皆様は自らの学びや意味を振り返る良い機会にしてほしいと述べられました。

来賓として足立前学習センター所長と竹下同窓会会長が祝辞を述べられました。足立先生は現在ご自身が関心を持たれている”セレンリビ

ティ”について話された。脳科学者の茂木健一郎は”偶然の幸運に会う能力”としている。偶然に出会ってそれを幸運に変えてゆく力が人間には備わっているが、その為には多少の努力が必要であることを106歳で亡くなられた日野原重明ドクターを例に挙げて豊かな人生を歩んでいただきたいと希望された。

学んだ知識は社会で活用を

竹下会長は卒業生の皆様には学ばれたことを活かし、社会の中でその力を発揮してほしい。学びが自己のためだけではなく社会に還元する努力をしてほしい。同窓会の活動はセンターの発展を寄与するために、会員を増やし、さらに社会への貢献活動にも取り組んでいる。是非とも同窓会へ参加してほしいと呼びかけられました。

在学生を代表して社会と産業コースの長尾さんが送辞を述べられた。年代の異なる方々の触れ合いや人生経験豊かな先輩方より多方面のアドバイスを頂き勇気づけられた。研修旅行では3月で廃線となった三江線を訪ねたとき、先輩方と共有できた時間は私の宝物になりました。

学びで得たことを地域へ貢献

卒業生を代表して生活と福祉コースの濱田さんが答辞を述べられた。放送大学はいつの間にか諦めていた「学ぶこと」を気づかせていただき入学を決意した。スクーリングには出来るだけ参加した。ほとんど松江で受講できたことはありがたかったが、広島、岡山、鳥取にも出かけた。鳥取では大雪になり、膝までの雪をかき分け駅前の宿にたどり着いた。放送大学という学び場があることの啓蒙、学びで得たことを何かの形で貢献できればと考えています。

続いて客員教員から卒業生修了生に花束が贈呈され会場を退場される時大きな拍手でご卒業、修了を讃えました。(石川直樹 記)

平成29年度 第2学期 卒業を祝う会を開催



平成29年度第2学期卒業を祝う会を4階第2講義室に移し、同

窓会主催で食事会を兼ね12時から開催しました。卒業生・修了生からは9名が参加されました。最初に竹下会長より挨拶があり、その後卒業・修了された方の現在の思いをそれぞれ語っていただきました。

「修士全科生として入学できるとは思っていませんでしたが、背中を押されて入学しました。苦しいのが半分、楽しいのが半分でしたが、すごくいい経験をさせていただいた」「定時制通信高校での教育相談員制度を修士論文のテーマにし、ゼミの仲間と励まし合いながら何とか書き上げることができ、本当に良かったと思っています」「工業高校で建築土木を教えているが、センターは居心地が良く職員の方が人として安らぎとか、暖かさが感じられた」「最初の卒業は生活と福祉を11年かかったが、2回目は2年で卒業できたが、温もりがあって離れることができない状況です」「3年間でなんとか卒業できた。面接授業で鳥取まで出かけたとき、90歳近い方が講師に質問され先生が回答出来ないこともあった。すごい方が入学されていることに驚いた」「職員の皆さんや面接授業のときに先生が優しく気遣いをしてくださり、ここに来るのが楽しみでした。心の整理がついたら選科でも良いので再入学したい」「姫路市からIターンで単身松江に来て8年が終わり、心理と教育コースを卒業できた。そのご褒美としてNHKホールでの学位記授与式に出席した。岡部前学長のフェースブックで他のグループの方と交流できた」「仕事と勉強の両立が難しく、途中で休学や退学も考えたが何とか5年で卒業できたので良かった。」「今年77歳になります。ここで8年間お

世話になった勉強が8年間でどう変わるか日記に書き続けているが、もう少し続けてみる」

最後に久保、野本両客員教員からお祝いの挨拶をいただき、和やかに歓談して祝う会を終了しました。(石川直樹 記)

卒業生の声(平成29年度2学期)

放送大学で学ぶ—感謝と提言

出雲市 小汀政徳

このたび、7回目の卒業となり、はからずも名誉学生として学長表彰されることになりました。これはひとえに家族や島根学習センターの皆様、お世話になった全ての方々のご支援のお蔭で心より感謝申し上げます。

放送大学には2000年4月に生活と福祉専攻に入学しました。まだ在職中でしたが、折りしもこのとき介護保険制度が施行され、これは将来身近な問題になるかも知れないという思いが入学の動機でした。以来18年間、放送大学のモットーの「いつでも どこでも 誰でも」のごとく誰の干渉もなく自分の好きなように自由に勉学できたことが一番良かったと思います。

学位記授与式に出席して



学位記授与式にはこれまで4回出席しました。2005年3月の最初の卒業のときは会場は千葉県浦安市の東京ベイN.K.ホールで開催された。前日に会場のすぐ隣のホテルに家族同伴で宿泊した。ホテルの目の前は東京ディズニーランドという環境であった。会場は今から思うと非常に広く、学部大学院の全ての卒業生修了生が1階の座席に収まり、2階は同伴者の席

のみであった。文科省祝辞は現職大臣が述べられ良かった。いつもこのようにあって欲しい。式後には東京ディズニーランド、翌日には開園5年目の東京ディズニーシーで楽しんだ。正に異次元の世界がこの世にあることを実感した。

2010年3月の3回目の卒業のときは現在のようにNHKホールで開催された。特筆すべきは、放送教材の点訳を手掛けられた「菜の花の会」代表が学長表彰を授けられたこと、学歌斉唱のあと第2部として小椋圭さんのコンサートがあり、「と・も・だ・ち」や「人間の贅沢、ひとつ」など生の声を聞いたことは思い出の一つである。式後、この時も家族旅行として会津地方を訪れた。途中、郡山から会津若松間で突如吹雪に見舞われたが、翌日は晴れ、鶴ヶ城、家老屋敷など戊辰戦争にゆかりのある会津の街並みを巡った。しかし、1年後、3.11によって大きな災害を被ることになることは想像だにもしなかった。

2014年3月の5回目の卒業のときは、北海道学習センターの方が97歳で2回目の卒業・出席されたので話題になった。(平成28年2学期の99歳で3度目の卒業をされたとき学長表彰特別賞を授けられた。)式後、島根学習センター所長を囲み、式に出席した5名で記念撮影した。その後、今回は神奈川県湯河原町を訪れることにし、翌日、湯河原梅林、不動滝や町立美術館などを巡った。

3月24日(土)、2017年度学位記授与式開催の朝、宿泊先のホテルからタクシーで会場に向かった。9時40分ごろNHKスタジオパーク前で降りるとすでに出席者が大勢開場を待ちながら行列ができていた。その後、前もって案内されていたC1入口から会場に入ると、2Fの各ブロック別にある受付に案内され、式次や学歌が記載されている資料が渡された後(例年ならここで出席者用のリボンを渡されるのだが今年度から廃止されたようだ)、1階に降り正式な座席場所を告げられた。前から5列目でやや中央に近かったのでいい場所であった。10時30分頃より案内にはなかったけれども学歌の

練習が行われた。恐らく本番ではしっかり声を出せということだろう。

11時、予定通り開式され最初に国歌演奏後、来賓が紹介された。続いて卒業証書・学位記授与が行われ教養学部卒業、修士課程、博士後期課程修了者の合計 6,036 名に授与されたが、博士後期課程修了者として初めて 8 名に授与された。次に來生学長が式辞、来賓として文部科学省副大臣、総務省審議官、放送大学同窓会連合会会長が祝辞を述べられた。來生学長は室町・戦国時代から終戦直後まで人生 50 年という感覚は続いていたこと、戦後 70 年というきわめて短い間に日本人の人生の長さの実感がほぼ倍になったことに触れ、これからの生涯学習のありかたを説かれた。続いて卒業生・修了生代表から謝辞があり、今年度から初めて博士後期課程の修了生も謝辞を述べられたが、外部発表論文の多さに正直驚いた。次いで学長表彰が行われ、今年度は名誉学生は 44 名、出席者は 25 名で、名誉学生名がスクリーンに表示された。表彰者代表は沖縄学習センターの方で、これまで我々と違った意味で大変ご苦労されただろうと想像した。学歌斉唱に移り、指揮はこれまでの岡部前学長に代わり千葉学習センター所長が執られた。閉式後、演壇前で記念撮影した後、宮本副学長から名誉学生お一人おひとりに表彰状が授与された。また、記念品と 2 学期卒業生には卒業証書・学位記が渡された。

嬉しかったこと

2007年4月、生活と福祉と産業と技術専攻を卒業したので、「大学評価・学位授与機構(現大学改革支援・学位授与機構、以下機構と略す)」の学位取得を申請した。直接のきっかけは2004年にセンターの学生談話室の前に展示されていたパンフを見たときである。放送大学で得た単位を積み上げればこれまでの学習が生かせることを知った。2004年度の卒業研究で日本でのEBM(Evidence-based Medicine)の進捗状況を各種データを用いて解析したが、まだ

初期段階だったのか進んでいないとの結論になった。しかし、しばらく経ってから、EBMの進捗状況を調べてみると状況が一変し、かなり浸透していることが分かった。これで卒業研究の結果をどこかで修正しないといけないと思って行き着いたのが機構の試験である。この試験はまず受験する専攻区分を決めなくてはならない。そこで最も研究テーマに合致していると思った学芸(科学技術研究)を選んだ。試験の内容は①専攻区分の専門科目の単位数(40単位以上)＋関連科目の単位数の取得、②学修レポートの作成、③学修レポートに対する小論文試験で構成される。3月末までに①と②を何とか整えて4月に申請した。6月に③の試験を大阪地区試験場である大阪大学豊中キャンパスで受験した。前夜は大阪梅田のホテルに宿泊して備えた。翌日、試験会場に着くとまだ開場前だったのか、多くの若い女性が芝生の上で教科書やノートを開いて勉強している姿にびっくりしたが、おそらく大多数は「看護学」の学位の取得のためと想像した。私のような定年過ぎのおじさんはあまりいなかった。試験は2問の記述式であったが、時間内に収めることができた。8月中旬にやや太めの書留郵便物(学位記)が届いたとき非常に嬉しかったことを憶えている。

驚いたこと

2015年の11月、放送大学から1通の郵便物が届いた。中身は16年4月からのカリキュラム改正だという。内容をみて「これは何だ!」と驚いた。

特に次の3点である。①外国語の取得は2単位以上に変更、②卒業要件の新規16単位の取得において例1と例2のあまりに大きな差異(科目履修生は16単位以上を取得すると即卒業要件を満たし、いわゆる単位の先取りOK、全科履修生はあるコースを34単位以上を取得しても、単位先取りはアウト)、③これまで修得した科目の読み替えの説明において十数年前に履修した共通科目が次の履修コースの導入科目と

して蘇生すること。このように放送大学が進むべく方向性はどこをみても伝わってこなかった。

一番懸念していることは、コース科目として「導入科目＋専門科目＋総合科目」としたために専門科目の比重は相対的に非常に低下し、自コースがもつ特性と専門性は著しく希薄になったことである。(機構の場合、各専門区分ごとに専門科目の取得単位数に厳しい基準を設けていて、40単位以上が多い)。速やかに各コースの専門性を重視したカリキュラムに見直して欲しいものである。

放送大学が生涯学習の最高峰の教育機関として、その内容が揺らぎないような確固たる教育体系を築いて欲しいことを願っています。

大学院修士全科生を終了して

人間発達科学プログラム

金森 詞子

私は37年間、高校の養護教諭や衛生看護科教諭として勤務してきました。

いつか大学院を卒業したいと思っていましたが、仕事、育児や家庭事情などに追われ、なかなか決断できず先延ばしにしていました。

そんな中、平成14年に「教員の単位取得による専修免許制度」が始まり、放送大学で大学院を卒業できることを知りました。通信教育で大学院を卒業できることは私にとって魅力的な事でした。

すぐに修士科目生となり、専修免許に必要な単位をとり、その後は修士選科生となって平成19年には合計24単位をとりました。これで全科生となって研究指導を受ければ大学院だと思いつながら、また決断できずに修士全科入学までに10年近くが経ってしまいました。

統合再編の定時制通信高校は

7年前に、定時制通信高校を統合再編されて開講したばかりの「単位制高校」に勤務することになりました。ここで、小中学校からの不登校傾向、発達障害、精神障害など困難な課題を抱えながら高校卒業をめざして入学してきた多くの生徒と出会い、教職員全体で校内外の様々な関係機関と連携しながら生徒支援にあたりました。

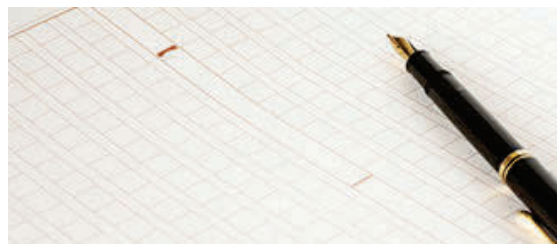
この高校では、他校ではまだ行われていない生徒支援体制を敷いており、このことを論文としてまとめよう、それを教員人生の最後の集大成にしようと修士入学を決心しました。

全科生となってからは同じゼミの仲間同士で励ましあい研究を進めて行きました。一人で研究をしていると、とかく独りよがりになってしまうので、指導の先生方やゼミ生、卒業生と直接会えるゼミは支えになりました。

修士論文で苦勞したことは

一番苦勞したのは「研究とは何か、論文とは何か」がなかなかわからなかったことです。時間を無駄にしたのではと思うことも度々ありました。しかし、二年目に入ってから、テーマが絞られて考えが明確になっていきました。私の場合は、論文とは何かがわかるのに時間がかかりました。

「人はやらなかったことを後悔するものである」といいます。放送大学にご縁をいただき、修士に入学し卒業できたことを心から感謝しています。ありがとうございました。



「学び方」あれこれ

出雲市 濱田 孝



今年の3月、やっと卒業できました。約7年間を費やしました。これまでを振り返ってみますと、私の大学での学習は、最初は真摯に取り組んでいましたが、次第に試験を受ける、単位をとるためだけになってしまいました。試験が終われば次の学習に進む、の繰り返しで、学習したことが記憶に残ることが少なく、教材ばかりが増えていきました。

こんな筈ではなかった、と思いながらも日常生活に追われ、自分の意志の弱さを改めて感じていました。そんな中、同窓会、学習センターの会報に接するたびに、皆さんの再度の入学、卒業と意欲溢れるお話を伺い、次々と勉強の枠を広げて学ばれる姿勢に圧倒される想いでした。

学び始めた原点に立ち返り

卒業が近づくにつれ、今後のことを考えた時、歳と共に衰える記憶力に不安がありながらも、もう少し学んでみようと思う気持ちもありました。そこで、最初に放送大学で学び始めた原点に立ち返り、中身の濃い学習をしてみようと思い、今年4月に2回目の入学を、上期1科目で挑戦してみることにしました。教科書にある参考文献を取り寄せたり、図書館に足を運んだり、テレビの講座をじっくり聴くなど、一つの科目に時間をかけて自分流の学びを探し求めています。「学び方」は人それぞれであり、自分にあった「学び方」を取得したいものです。

自分なりの「出雲國風土記」完成へ

また、教材から離れて引き続き「出雲國風土記」も学び続けたいと思っています。最近話題になっています「古代山陰道」の現地見学会等に参加し、実際に自分の目で確認することによって机

上の知識を肉付けし、自分なりの「出雲國風土記」を完成できればと考えたりしています。大それた目標ですが私の夢でもあります。卒業して3ヶ月、今の私の心境と現状です。

同窓会の皆さまの活動に微力ながら協力できましたら、幸いです。

夢のような学位記

松江市 米山 章



平成24年2学期に人間と文化コース3年次に編入学、最長6年の在学年限が際どい平成30年3月に卒業することができました。

当初は山登りでもするかのような軽い気持ちでスタートしました。スポーツジムのストレッチや水泳を「体育実技(1単位)」に認定してもらったこともあります。健康維持を兼ねて学割特典でジム通いをしながら学んでいた、そんな気がします。気楽に楽しく学んだ結果、学位記がいただけるなんて夢のようです。こんなことはこれが最初で最後“学位記授与式は東京さ行く”と決めていました。

3月24日、東京渋谷のNHKホールの会場周辺には式の1時間も前から多くの卒業生や修了生が全国から集っていました。

天気は快晴、満開の桜の中、島根SCの旗を高く掲げた佐々所長、道前事務長に出迎えていただきました。近くでは中谷アナウンサー(島根県出身)により、「大学の窓」で放映する授与式特別番組の収録が始まっていました。

会場は全国の地域がエリア別に分けられており、中国地区は二階席でした。まもなく本番で斉唱する「学歌」の唱歌指導がありました。どこかで聞いた(読んだ)ことのあるような懐かしさがあり、多少照れもありましたが声を出して歌ってみました。

学歌は初めて歌った

本部主催の学位授与式では「学歌」が歌われる。当たり前と言えばそうでしょうが、このたび初めて参加して、島根学習センターにはそれがなかったことに気が付きました。

私は以前、教務担当としてセンターに3年間勤務していました。式典は慶事ですので、式場に紅白幕を準備したことは記憶にあります。学歌は一回も歌ったことがありません。「いまさら!」という声もあろうかと思いますが、これから卒業・修了していかれる方々のためにも是非ご一考いただければ嬉しく思います。

さて、平成29年度2学期における卒業・修了者数は全国で3902名とのことでした。

私は指定された最前列に座りながらあたりを見渡しましたが、空席も少なくなくほぼ満席の状態でした。中でも今年度初めての輩出された大学院博士後期課程の方々も4名出席されており、以前に比較して格段に充実した放送大学を目・耳で肌で感じた記念すべき式典でした。

連載シリーズ 第4回

“先輩同窓会員”を訪ねて

鳥取県日南町上石見
古川貞美さん



梅雨の晴れ間の6月14日、鳥取県日野郡日南町にお住まいの古川貞美さん(平成20年1学期卒業・発達と教育コース卒業)を

訪ねた。

緑の茂りが深く影を落とし、山法師が溢れんばかりに真っ白な花をつけている、山間の爽やかな道を駆け、車を走らせること1時間30分、古川さんが待たれる「石見地域振興センター」に到着した。

四方を山に囲まれ、500m進み峠を越えたらそこはもう岡山県境という雛の郷。時折伯備

線の列車がコトコトと音を立てて通り過ぎて行くのが



聞こえる一室で、この日はご両親の介護時間を割いての貴重な時間をいただいた。

放送大学とのかかわりは?

竹下 放送大学をどこで知られましたか?

古川 当時は役場で男女共同参画の活動をしてた折に、役場のチラシで知りました。もう20年も前のことですね。

竹下 入学される動機は何でしたか?

古川 当時中学3年生の娘の同級生が不登校になり(当時は学校恐怖症等といわれておりました)加えて友人の子どもさんや日南の小さな小学校にも増え、全国的な問題となり解決策として「心理学」が登場しました。親の心労を見るたび「普通の家庭で何で?」この疑問を解きたくて「心理学」を学ぼうと思ったからです。しかし、実際に学んだ心理学は私が思っていた心理学とは大変な違いでした。統計学や数学が出来なければ簡単ではないことが分かりました。心理学が少し理解できたのは、友人の離婚相談に関わった後でした。「心理学の根本は相手の話を否定しないで聞き役に徹することなんだ」と、相手が思いをすべて吐き出す。それから解決策が見えてくるのではないかと。

竹下 カウンセリングで最も大切なことは、たとえ話がエンドレスでも「聞き役」に徹することだと聞きましたが?

古川 そのような気がします。放送大学の小野けい子先生が、私はカウンセラーですが家族に対してはカウンセラーは出来ません。また、カウンセラーはカウンセラー同士でカウンセリングしあい、心の疲れを癒します。忘れられないお話しです。



知野見 ところでこの地域は降雪が多く、学習センターまで通われるのに大変な思いをされたのではないですか？

古川 最初は鳥取学習センターに入学しましたが、1年後くらいに松江に変わりました。今は高速やバイパスなどが整備されていますが、昔は一般道のみでしたので2時間以上かかり大変でした。特に視聴テープ貸し出しは2本で1週間でしたので、郵送したり、主人が仕事で松江に出かけた折に借りたり返したりでした。

私は家には自分の時間を持つことが出来なく、ほとんど勉強ができないため、試験前になると学習センターの視聴覚室に1日中籠って勉強をしました。一人になれて集中して勉強できましたね。

知野見 当時お休みになられる時間や起きられる時間は何時頃でしたか？

古川 あの頃は11時頃寝て、朝4時頃起きていましたが、今は5時頃に起きています。

竹下 主婦業をこなし、お店もあり、農業も子育てもされ本当に大変でしたね。貴女と最初にお会いしたのが実は視聴覚室でしたね。

古川 私は鳥取学習センターの面接授業の時に、夕食場所を探しに行った記憶が鮮明です。2回目の卒業を前に単位を取るばかりの勉強に疑問を抱き、再入学の手続きをしませんでした。親も私も歳をとりなかなか復帰できない状況になりました。

竹下 入学された当時と現在の状況とは環境も違いますが、どう感じられていますか？

古川 今の面接授業時のレポート提出はどんな状況ですか？私の頃には提出したレポートにA・B・Cの評価を付けて返される先生もおられ、や

る気満々となりました。レポートが返らないと自分でわからなかったことがそのままになっていて、学んだことが活かされない気がします。

今でも残念に思っているのは、数学の授業を受けた時でした、2問中、1問目は解けましたが2問目は途中まで、答案を返して頂き確かめなかったと残念でした。

私は疑問があればすぐ手を挙げて質問していましたが、特に若い方は個人的に質問されるのが気になりました。様々な質問を聞かせて貰えればなるほどと、また違った考え方を知ることができるのと思っていました。

竹下 この4月から学習センターではテープの貸し出しが出来なくなり、本部に申請し送付を受けることになりました。ただし視聴は今まで通り視聴覚室で可能です。

古川 視聴覚室に集まって「お互い頑張ろうね」と励まし合って交流が出来たのが良かったのですね。ところでサークルがいくつかありましたね。

竹下 学友会、俳句サークル、作文の時間やおしゃべり会、4月から修士のための英語塾を開講しました。内容はいきなり高度なものではなく、中学1年生程度から始めています。

古川 毎年海外に一度は出かけているので、英語はしっかり学びたいと思っています。「私も行きたいな」、参加をしたいのですが今からでも大丈夫ですか？（古川さんの私も行きたいな～の言葉が印象に残りました。）

竹下 放送大学で学ばれて、これは良かったと思われたことがありますか？

古川 いろんな人と出会えたこと。解からないことが



解かったときは「ヤッター」という気持ちになります。個人的には松江での行事「ホーランエイヤ」を学習センター前で整行列など見物できたこと。松江は和菓子屋店があり、そのあたりを散策し

たことです。「松江は住みやすいところだ。松江は住むのには良いところだ」と言われていた先生もたくさんおられましたね。

竹下 後輩に伝えたいことはありますか？

古川 私なんか学ぶ環境に比べたら、皆さんは学ぼうと思えばいくらでもチャンスはあるのですから、社会人になってからでも学んで欲しいですね。

竹下 同窓会では会報“たたら”を年2回発行していますが、ご意見や要望等あればお聞かせください。

古川 面接授業の案内や講演会の案内は必ず観ています。毎回多くの方が投稿されていて、懐かしい人の名前を見つけると、元気になってもらえるのだなあという懐かしくなります。連載企画も興味を持って見えています。

知野見 心理学について卒業されていますが、今でも心理学に関心をお持ちですか？

古川 臨床心理士の取得は大学院を出なければ資格は取れませんが、認定心理士については2009年に取りました。

竹下 同窓会のホームページはご覧になっていますか？

古川 放送大学のホームページは見ますけど、同窓会については見ていません。どうすればいいのですか？

竹下 「放送大学島根同窓会」と入力されたら見られます。本日はご多忙の中協力頂きありがとうございました。これからも同窓会をよろしくお願いします。

取材を終えて

日南町に生まれ日南町で育ち、そして日南町に嫁がれた古川さん。ここには松本清張の祖父ゆかりの地ということで、その文学碑が佇ち、井上靖記念館もある。さらに豊かな自然であることを象徴する、希少生物、ヒメホタルの一大生息地域でもあり、冬には雪が1mも積もり、昭和30年代の最盛期往時には1万人強の人が暮らしていたとか。



陸上交通手段のコミュニティバス停

現在は学校も小中学校に併合されて、4000人ほどが暮らしていただとの話でした。

飾らずに気さくに話されるそのお話の中に、古川さんの学ぶことに対する真摯な熱意と誠実な人柄を感じ、私もウカウカとしておられないなあーという思いと、そして爽やかなひと時をいただいたという充実した思いで、日南町を後にした。(知野見・記)

オープンキャンパス支援（浜田） に取り組んで

副会長 琴野正義



昨年7月に浜田市で放送大学のオープンキャンパスが開催されました。私の卒業は10年以上前ですが、放送大学について当時と比較して考えてみました。

現在はインターネットを利用して入学出願や放送授業の視聴、通信指導等ができるようになっており、以前より学びやすい環境になっていると思います。学ぶことの潜在需要は県の東部、西部を問わず少なからずあると思います。その需要に対して十分な受け皿となるためには放送大学の存在をより多くの皆さんに知って頂くことが大切です。

以前開催されたゴッホやセザンヌ等の公開講座は、その意味でも有意義なものであったと思います。このような講座を県西部でもどしどし開

催して頂き、多くの皆さんに放送大学の存在や学ぶ楽しさを理解して貰えるよう、もとより微力ではありますが協力して行きたいと思いません。

オープンキャンパス支援(出雲) に取り組んで

理事 安井 多喜恵



役員会において予想もなかったオープンキャンパスでの卒業生体験談を話すことになった。会場の出雲市立中央図書館には

聞いていたより多くの方が年齢、性別を問わず真剣な表情で着席されており「学び」に燃えるほどの意欲は無かった私が恥ずかしくなるような雰囲気であった。空気に吞まれそうになり消えたい気持ちであったが、皆さんに入学して自分の学びを達成して欲しいという思いが強くなった。

5分間という持ち時間で伝えられることは、私自身の卒業までの失敗を話し、同じ失敗をされないように話すことかなと感じ入学後は、分からないこと・疑問なことが生じたら事務局に質問をする事が一番と伝えたがもう一つ勉学で得る喜びについて話すことも大事だったのではと思った。初めての「先輩からの一言」は自分のためにももっと事前勉強が必要であると反省しきりであった。

平成30年度学生研修旅行ご案内

今回は旧山陽道の宿場町で江戸時代の参勤交代や篤姫(天璋院)が徳川家定に嫁いだ時に宿泊した石井家などが、保存されている岡山県矢掛町を研修します。

日時 9月8日(土)センター7:20 発
参加を希望される方は空席ならOK
センターの山根さん迄 ご連絡下さい。

地区会員の近況報告 (中部地域)

卒業後の私 ⑥

大田市 板倉直之



みなさんこんにちは、大田市在住の板倉です。今回竹下会長より原稿執筆の依頼を受けまして何を書こうか考えていましたら“職場の現状について”と会長から提案を受けましたがそのことは最後にほんの少しだけ触れさせてもらおうかと思います。

私が放送大学を卒業して6年経ちます。同窓会の設立からは5年経ち同窓会役員として放送大学に関わっていますがいまだに感じるのが横長の島根県の特徴である東部・西部の距離の壁です。在学中の当時も面接授業で松江に通っていましたが2日間の授業を受けるのに1泊したりと楽しみもありましたが負担もありました。同窓会でもその壁に対してみなさんに活動に関わってもらえるように工夫を凝らしていますがまだまだ西部の方の活動への参加増には至っていません。

私自身なかなか活動に参加できていませんが年2回ある卒業証書授与式には参加するようにしています。自分が卒業した時の卒業式はさみしいと感じるものでしたが現在、役員のみなさん、会員の方の協力で当時の卒業式よりも少しですが華やかになっています。まだ参加したことがない会員のみなさんも学習センターの様子見がてらどうですか? 当時とは変わっているところもあって面白いですよ。一人でも多くの会員の方に活動に関心を持っていただけたらいいなと思っています。

始めに書きました“職場の現状について”ですが、私は福祉の仕事に関わっています。ニュースに取り上げられる福祉は“虐待”などよくないニュ

ースが多く、どうしてこんなことが？と思われることがあります。多くの福祉に関わる職員の方々は日々忙しい中、利用されている方のために一生懸命仕事をされていると思います。もっといいことをニュースで取り上げてもらえれば福祉を志す人も増えてくるのと思う今日この頃です。

最後に4月9日にありました大田地震では多くの方から心配の連絡をいただきまして本当にありがとうございました。

卒業後の私 ⑧

大田市 知野見孝信



銀の産出量世界一（16世紀半ば）を誇った世界遺産の石見銀山・なだらかな優しい姿を連ねる三瓶山・失われてゆく美しい日本の自然の中で、今も美しい鳴り砂を奏でる国の天然記念物琴ヶ浜。

文化においては、仏教学者鈴木大拙が「日本的靈性」として高く評価した浅原オーをはじめ善太郎の妙好人を輩出した土地・上方では昔から「石州左官の腕は確か」と絶対の信頼を得ていた「石州職人」達の郷・そして豪快な石見神楽が舞う。

JR山陰線の田儀駅を過ぎ、トンネルを幾つか抜けて列車が最後の一番長いトンネルを抜けると、そこには赤瓦の屋根と荒い波と青い海の広がる街並みが見えてくる。

「なつかしの国石見」に入ったのだ。風や光が匂う潮風が、人々が交わす言葉が明らかに雲とは違う。

「石見人は時代を超え、階層にかかわらず、いずれも頑固なまでに一途であり、素朴単純であり、情熱的であった。出雲人との気質の違いは歴然としている」藤岡大拙氏は『出雲人』（ハーベスト出版）のなかで、石見人をこう評価していた。私が暮らし住む「なつかしの国石見」大田市

を、先ず冒頭紹介させていただきました。

さて学士をめざし、卒業をめざしていた頃は、朝2時に起きて勉強をしていました。そして志を果たし、卒業して早や3年となります。現在は遅くなりましたが、相変わらず早起きをしています。

50分近くかけて般若心経の写経を一巻認め、神仏にご挨拶してから私の1日が始まります。毎月1回の足立先生を囲んでの「作文の時間」や同窓会の会議・行事で夫婦して松江に行くことなどが、私の楽しみとなっています。

大学で習う学問の程度、内容というものをこの身をもって経験したことで、より深い目で書物を読むことができるようになったことが、大きな収穫と自信となりました。

再入学した「社会と産業コース」を3年くらいで卒業する予定でしたが、最近根を詰めて集中することが出来なくなり、既に3年となりましたが、いまだにそのままです。また始めたフランス語の勉強も全くままなりません。こんな私ですが、マアこれからは次のような心境で力まぎに日々を愉しんで過ごしたく思っています。

「山あれば山を観る・雨の日は雨を聴く・
春夏秋冬・あしたもよろし・ゆふべもよろし」
山頭火句集『草木塔』の言葉。

「卒業後の私」 ⑨

大田市 寺戸朱美

私は、放送大学の心理と教育学コースを卒業しました。更に、もっと深く学びたいと思い、大学院の選科履修生に在籍しました。再び、家族の行事と重ならない日の教科を選び、1教科50分の単位認定試験の為に松江市の島根学習センターへ、片道2時間かけて行く生活が始まりました。（まだ、続いています。）

自宅が、学習センターから遠いことは、お金や時間だけでなく、気力、体力、そして家族の理解や協力が必要で大変です。渡辺和子先生の「置か

れた場所で咲きなさい」という言葉のように、今ある状況で、できる事をしようと思いました。そして、達成感や合格は家族と共有しました。格別です。

入学した時小学生だった子ども達は、中学、高校へと育ち、パソコンを教えてくれたり、放送授業を見ていると、私より先に覚えたり、私の試験に合わせて、松江市にみんなで行ったりしました。今では良い思い出です。

現在は、遠方で面接授業があるときは、子どもの所に宿泊し、顔を見に行く楽しみにもなりました。家族は成長するということを実感しました。また、単位認定試験や面接授業で一緒した方と、いまだ交流があり、同業者でない方、同じ市にお住まいでない方とお話しするのは、知見が広がり、楽しみです。

「昔のお産婆さん」へ

私は、卒業後、母子やその家族に寄り添いたいと、フィールドを変えて、地域の助産師として働いています。「昔のお産婆さん」のようにいろいろな相談に乗れる存在でいたいと思っています。

産後うつや孤独な子育てが問題になる中、放送大学で学んだ「心理と教育」や、そこで得た経験を基に、家族が、健やかに、地域で子育てができるように、温かく支援していきたいと思えます。また、子ども達への出前講座では、「自分の大切さ」や「思春期の心身の変化や自分らしさ」を伝えたいと活動しています。

もっと学び、いろいろなところで還元していきたいと思っています。

会員リレートーク ⑧

「私のボタニカルアート」 の世界

安来市 佐藤ひばり

私が初めてボタニカルアートに出会ったのは、友人の個展を見に行った時でした。会場で原画を見た時の驚きと感動は今でも忘れません。細密な描画で植物が生き生きと描かれているのです。私もこんな素敵な絵を描いてみたいと思い、NHK文化センターのボタニカルアートの教室に入りました。

ボタニカルアート (Botanical Art) とは、植物学的な芸術のことですが、科学的な目で植物を正確に描いた、しかも芸術的に優れた絵画であるということです。

普通、絵画というと、描く人が感じたものを一番大切に、色も形も自由に表現してよいのですが、ボタニカルアートの場合は、植物学的な特徴を、主観を交えず忠実に表現します。絵を見てその植物の名前がわかるほどに正確に描かれていなければいけません。

私の日課の一つに朝のウォーキングがあります。近くの海岸沿いを4km位歩くのですが、その時いろいろな発見や感動があり、冬には白鳥の飛来を見ることがあります。米子市の水鳥公園から能義平野のえさ場に向かって何十羽もの集団がVの字になって飛んでいくのですが、「クォー！クォー！」と鳴きながら飛んでいく姿は勇壮で感動します。

植物の造形の美しさは生命の神秘

一方で、季節には周辺の山々の紅葉、道端には草花や雑草が生い茂り、いたるところで四季を感じ生命の輝きを発見できます。野に咲く草花は自然の営みや命の姿そのものを教えてくれ、植物の造形の美しさや生命の神秘に心を動かされる時、描いてみたいと思うのです。

本来、植物画には4つの約束事があります。

- ①植物の特性を変えない。
- ②実物大に描く。
- ③背景に色を塗らない。
- ④人工的なもの（花瓶や植木鉢など）を描かない。

このような約束事を守って描くのが植物画

ですが、私が描いているのは4つの約束ごとのうち、①の「植物の特性を変えない」という基本原則を守りながら、ある程度自由に描いています。堅苦しく図鑑の絵のようではなく、植物の持つ特性や美しさを表現できるように心がけています。初夏を迎えるこの頃、道端にはヒメジオン、マンテン、ヒメオドリコソウなどの野の草が風に揺れています。白や赤や黄の花を持つかわいい草花たちを見ると愛おしく思い描いてみたいと思うのです。

これが私のボタニカルアートの世界です。表面的な美しさではなく、生きている本当の美しさに感動する気持ちを持ちながら、今後も豊かな心を育んでいきたいと思えます。



作品「冬のススキ」



私の書棚から

松江市 田中秀典



・本の題名 『Life Shift
(ライフ・シフト) 100年時代の
人生戦略』

・著者 リンダ・グラットン

& アンドリュ・スコット(著)池村千秋(翻訳)

・出版社 東洋経済新報社

日本人の平均寿命は戦後、大きく伸びた。現在

では男女ともに80歳を超えており、現在もわずかながらも伸びつつある。今回紹介する本では、2015年に生まれた人は、50%の確率で100歳以上まで生きると予想している。そうした場合、これまでの3ステージ(教育期間、労働期間、退職後)の人生設計では上手く乗り切ることができないとしており、その解決の一つとして人生のマルチステージ化ということを提案している。つまり、前述した3ステージを行き来することにより、より充実した人生設計ができると提案している。

しかしながら、これらのステージを上手に行き来することは難しく、移行をスムーズにするためにも「新しい役割に合わせて自分のアイデンティティを変えるための投資」、「新しいライフスタイルを築くための投資」、「新しいスキルを身につけるための投資」を怠ってならないと書いてある。

この記述を読んで、放送大学のことが頭に浮かんだ。放送大学の在学生や卒業生はこの本に書かれていることを既に実践しているのではないかと。私自身、放送大学に入学したのは、大学時代までに受けた教育だけでは限界を感じていたためであり、前述した「新しいスキルを身につけるための投資」だったと思っている。私の場合、人生100年とするとまだ残りの方が長い。この本に書かれているように、人生のマルチステージ化に対応できるように、引き続き投資を行っていきたいと思いを強くした。

同窓会東部地域主催

第3回 “いちご狩り” に参加して

松江市 橋本美枝子

新年度早々に同窓会にて企画されたいちご狩りに参加しました。今年も十数名の小ツアーでした。元来女性や子どもは果物好きで、私は梨狩りにみかん狩り、そしてリンゴ狩りやぶどう

狩りに
といる
いろな
狩りに
参加し



ていますが、このいちご狩りだけは同窓会の企画に参加したのが始めてであった。

昭和初め生まれの私にとってのいちごは、子どもの頃庭先の草叢にポツンポツンと生っていた酸っぱい実を摘み食いをしたり、遊び仲間と山に入って野いちご取りぐらいの思い出のいちごで、昨今のようなメジャーな果物ではなかった。が此のところ数十年の間にいちごの育成がハウス栽培へと進歩したり、品質も掛け合わせなどもあってか、改良されて美味しくて実の太った見事な果物に進化してきている。

そうした折、同窓会よりいちご狩りの案内を受け、会費も安く松江市内と近場でもあることに加えて、果物好きの食い気にも誘われて初回から参加している。

今年も農園の方のご厚意によりハウスの畝一杯に完熟した真赤で大きく玉太りしたいちごハウスに案内された。農園主のお話しによれば、紅ほっぺという品種で、モーツアルトの音楽を聴かせることによりアロマ効果があり、更なる栽培努力をされているとのお話を聴くことができた。

テレビなどで酒造りにクラシック音楽を聴かせ熟成を促すなど聞いてはいたが、いちご栽培では初めて聞く苦労話であった。そして何よりもその完熟した大きな紅ほっぺを1時間余りの間にお腹一杯に満たした上に、おまけにパックに崩れ落ちる程に詰め込んで、お持ち帰りでもなんとも“贅沢ないちご会食のツアー”でしたが、今回はジャム用のいちごを買わずじまいだったのが心残りである。

近年いちごもケーキやクリームにアイスなどとコラボし、スイーツとして多用途化し老若男女誰にでも好まれる果物としその存在価値を高めている。

同窓会に“期待”する③

～在学生の一人として～



学友会会長 八田定夫

はじめまして。日ごろから同窓会員の皆様方には大変お世話になっております。

さて、同窓会の活動を外からみてみますと、輝かしいものがあります。まず会員同士のつながりが強いということであり、第二に活動につきまちはいろいろな角度から取り組まれており、学ぶことが多く感謝しております。

同窓会本来の目的は？

ところで、同窓会本来の目的は、何でしょうか。それは母校の発展に寄与することと会員相互の親睦にあらうかと思えます。その目的達成のためには幅広く意見を集約しコミュニケーションをはかることでありみなさん周知のことです。何事もオープンに場合によっては組織外からの意見・アイデアを取り入れることも必要であります。

まず、母校の発展への寄与についてみてみましょう。その点現同窓会は放送大学のPR活動つまり各地区での入学説明会など意欲的にしておられます。また学友会、大学事務局と協力して地域の活動へ積極的に参加し、その名を高めておられ、さらにボランティア活動はもとより市民公開講座などを開かれ幅広く人材を活用されていることには驚くばかりです。

さて、会員間の親睦はどうでしょうか。どこの組織でも同じ傾向になりがちですが、若い人は参加者が少なく、依然として同じメンバーが顔をそろえることになり、そのこと自体は良いことなのですが、これではなんら変わらないということになります。

若い会員を取り組む努力を

そこで、若い会員の方々を取り組むような活動はできないものでしょうか。また交流会をもっと小単位にして交流しやすいようにしてはいかかでしょうか。時間帯もお昼のランチで会合をするのもよいかもかもしれません。場所も数か所増やし密度良く設定するのも良いのでは。

イチゴ狩りなどもよいことですし、島根県東部・中部・西部など各地域で交流をしてみるのも良い事かもしれません。

ただ時間には限りがありますので、普段の行事を見直すとか、負担軽減を図らないと後継者不足になりかねません。

「言うは易し・・・」と私にも言い聞かせ、明日に向かって頑張っていきたいものだと思うこの頃です。

平成 29 年度

「卒業研究・修士論文」発表



2月4日(日)、「平成29年度卒業研究、修士・博士論文発表会」が公開講座に続いて開催されました。今年度は卒業研究一名、修士論文二名、博士論文の経過報告一名の4人の方々によって発表がおこなわれました。外は雪が吹き荒れていましたが、会場では多数の参加者や客員教員の出席のもとで活発な討論が行われました。発表された皆様と簡単な発表内容は次の通りです。発表が終了すると発表者のご努力とご苦労に対して大きな拍手で讃えました。

・北垣 秀俊さん

(卒業研究・心理と教育コース)

テーマ：「死と再生の物語」と思春期－オオクニヌシ神話を中心に－

オオクニヌシの2度の「死と再生の物語」を取り上げ、類似した二つ物語との共通点と相違点を比較しながら考察した。「死と再生の物語」は数多いが、損壊した遺体を回収し、再生させる物語は多くないと思われるので、日本的な心性を分析する材料を探った。オオアナムチ(オオクニヌシ)神話の類話として「中年期の危機」の心理過程を表象したオシリス神話(エジプト)と思春期的母殺しの物語である柏楨のはなし(グリム)を選び、殺害者、殺害方法、再生の方法、再生の協力者、再生の結果、復讐者、復讐の結果についてそれぞれ比較した。オオクニヌシの二度の死と再生は思春期の身体的変化と自立のきっかけを表象していた。

品川隆博さん

(修士論文・生活健康科学プログラム)

テーマ：過疎の農山村地域での地域福祉活動の現状と今後の課題－島根県邑南町布施地域を事例として－

島根県邑南町布施地域は人口や世帯数の減少、高齢化の進行により、安心して充実した住民生活の維持が難しくなることが予測された。本研究の目的は新たな地域運営を目指す「邑南町地域コミュニティ再生事業」を調査し、地域の持続可能性を明示することである。研究の手法は参加型のアクションリサーチを用いた。組織として既存の自治会を補完する組織を設置し、構成する委員会を重層的に運営する体制にした。その結果、①活動組織がリーダー集団を形成し、自治会・公民館・活動組織の三位一体化した地域運

営につながった。②地域活動の主力が 60 歳代後半から 70 歳代の住民で、この地域で暮らし続けたいという思いが強く働き、地域運営をけん引した。今後は次世代への人材育成が必要である。③補助金の財政支援を得たことで組織が有効に機能した。提言として行政の支援事業の提供とワンストップサービスが必要である。

金森 詞子さん

(修士論文・人間発達科学プログラム)

テーマ：「定時制通信制高校での教育相談員制度の導入が生徒支援・教育支援に及ぼした効果」

島根県定時制通信制 S 高校における教育相談員制度の導入に伴う効果について調査した。はじめに S 高校の全体像と教育相談体制を説明した後、S 高校における教育相談員の位置づけを述べた。本研究の目的はこの制度を導入することで生徒支援効果と教育支援効果があったかどうか調査することである。調査方法は半構造化面接法によって行った。これは一定の質問に従って面接を進めながら、被面接者の状況や回答に応じて面接者が質問の表現、順序、内容などを変えることができる方法である。面接を許諾された 12 人の教育相談員に 30 分から 60 分インタビューしたあと、記述したものを一つ一つ確認作業を行い、考察した。生徒支援効果としては、教員側の視点が得られたこと、生徒の気持ちを代弁していることである。教育支援の効果として心身の負担の軽減になったこと、情報の共有、校内連携ができたことなどである。

福頼 尚志さん

(博士論文・経営科学プログラム)

テーマ：地方消費者行政における「消費者の自立の支援」(経過報告)

博士後期課程の研究課程の研究指導方法は①

基盤研究(特論と研究法)、②特定研究(論文指導)から成るが①は既に修了している。このテーマを選んだ問題意識は、「自立した消費者」「消費者市民社会」は現実的か? 行政はどこまで関わるべきか? 行政の「消費者支援」は全体最適化を志向すべき等である。

この研究のため、第一査読論文として自治体における消費者教育の優先順位(日本消費者教育学会「消費者教育」第 37 冊(2017.9))を発表した。その内容は、消費者教育推進法の「推進性」は、行政に総合的の市民育成の役割を担わせた初の立法例であることや、自治体の人員減と政策選択への影響、消費者市民教育の政策選択において自治体は、「理想的市民の育成のため、理想を実現する手厚い住民サービスか、自己責任の拡大する中で市民社会の前提条件づくりか」について考察した。現在、第二査読論文「消費者の脆弱性と行政支援の射程」(仮)を作成中である。

最後にセンター所長や客員教員から講評がありました。これからの研究がさらに進展することを期待したいと思います。(小汀政徳記)

会員メーリングリストを開設

本年 4 月 1 日から懸案であった本会のメーリングリストを開設いたしました。メーリングリストの最も大きな利点は、会員の皆様に「お知らせ」などの伝達事項が一斉に送信でき、また会員同士のご意見を活発に交換することができることです。

4 月 9 日の島根県西部地震の際には竹下会長からの被害状況のお問い合わせに対して多くの方々からの返信メールが届き、私達も直ぐに被害状況を知ることができました。今後、本会の社会貢献活動等の計画についてこの会員メーリングリストを通してアイディアがたくさん寄せら

れたらいいなあと思っています。

一方、4月1日にはホームページに本会の「個人情報保護方針」も掲載しました。今一度、ご一読いただきますようお願いいたします。その主な内容は、法律や法令を遵守するのは勿論ですが、①個人情報を適切な方法で取得し、利用すること、②個人情報の安全管理を徹底すること、③個人情報を本人の同意なく第三者に開示や提供をしないこと等です。

私自身が特に留意していることは、個人名とメールアドレス、個人名と固定電話番号や携帯番号を併記しないこと、住所は市名(町制の場合は町名)までの記載に留めること、顔写真については鮮明な画像はできるだけ避け、写真サイズを縮小することなどです。

尚、メーリングリスト内では、メールアドレスや差出人は非表示になっています。(もし、必要があれば本文中に記載してください。)また、本会メーリングリストに参加されていない会員の皆様はいつでも登録できますので、下記のメールアドレスにご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。(広報部 小汀)

mado@oushimaned.main.jp

第11回 市民公開講演会

「国際化する消費者被害」

2018年4月22日(日)午後1時30分より島根学習センター4階第2講義室において第6回通常総会の第1部として総会記念市民公開講演会「国際化する消費者被害－消費者センター相談事例から－」(平成30年度消費者問題出前講座)を開催しました。

経済社会のグローバル化の急速な進展により、私達の消費生活にもグローバル化の影響が及んでおり、世界中の国や地域から輸入された多くの商品に囲まれて日常生活を送っています。しかし、その取引においてトラブルも多数発生し

ています。当日、多くの参加者がありましたが、私達はこれに巻き込まれない対策や心構えが必要になってきました。

今回、講師として田邊和佳子さん(島根県環境生活部環境生活総務課 消費とくらしの安全室(島根県消費者センター) 調整監)をお迎えしました。講演の主な内容は次の通りです。

最初にスマートフォンやインターネットの普及によって一般消費者に及ぼした影響を「平成28年度電子商取引に関する市場調査(経済産業省)」から次のように概観された。

- ・国内B to C EC(物販)市場規模が2016年には15兆円を突破し、EC化率は5.43%となった。

- ・B to C EC(物販)のスマートフォン経由の市場規模は2016年には25,559億円でスマホ比率は31.9%と利便性や簡便性からか3分の1を占めるようになった。

- ・ネットオークションの市場規模は10,849億円であるが、そのうち、個人間のC to Cによる市場規模は3,458億円で既に3分の1を超えている。

- ・2012年に誕生したフリーマーケットアプリの市場規模は、2016年には3,052億円となり拡大傾向にある。フリーマーケットアプリは高校生、大学生から中学生まで拡がり場合によっては小学生にまで入ってきている。

- ・国境を越えたEC市場規模(2016年)は日本、米国、中国の間の輸入額で、日本2,396億円、米国10,415億円、中国21,737億円である。

経済のグローバル化は消費者がインターネット経由で海外事業者とネットショッピング、ゲーム、LCCなどの格安航空券、金融商品取引等の取引で海外事業者とのトラブルが多数発生するようになり、2011年11月に越境消費者センター(CCJ)が開設され、2016年には国民生活センターに業務が移管され、より迅速に対応できるようになった。CCJの役割は、海外ショッピング等でトラブルにあった消費者のための相

談窓口と海外の窓口機関と連携し手消費者と海外事業者の間に入りトラブルの解決をお手伝いすることである。

2017年11月現在、連携可能な国は、アメリカ、カナダ、メキシコ、韓国、台湾、シンガポール、マレーシア、ベトナム、フィリピン、タイ、スペイン、ロシア、南米10カ国、イギリスである。(上記以外でも相談には応じている。)

また、CCJが受け付けた相談の内容を「平成29年度版消費者白書(消費者庁)」によって概説された。

- ・取引類型別では圧倒的に電子商取引が多く、年齢別では40歳代や中高年層が多い。
- ・商品・サービス類型別割合は身の回り品やソフトウェアが多い。
- ・決済手段別相談件数をみると近年は圧倒的にクレジットカードが多い。
- ・トラブル類型別ー決済別の相談件数をみると解約ではクレジットカード、詐欺疑いでは金融機関振込が多い。
- ・事業者所在国別の推移では米国や英国よりも所在国不明の場合が大幅に上回り、トラブル解決を難しくしている。
- ・事業者所在国別ートラブル類型別の相談件数の推移では米国は解約、中国は詐欺疑いや模倣品の到着、英国は解約、所在国不明では詐欺疑いや解約が多い。

次に島根県消費者センターが扱った消費者トラブルの次のような相談事例：出会い系サイト、ウイルス対策ソフト、副業サイト、ネット通販、FX取引(外国為替証拠金取引)とバイナリー

オプション取引(為替等の上下を予測して判定時刻に事前に定めた権利行使価格を上回った(下回った)場合に一定の金銭を受け取る仕組み)、マルチ取引、仮想通貨についての解決策や対応について詳細に説明された。

一方で販売方法や支払い方法の多様化によって、身の回りにはIC型電子マネー、サーバー型電子マネーやクレジットカードが生活に浸透してきた。こうした中でクレジットカード会社(加盟店契約会社)、(決済代行業者)は改正割賦販売法が平成30年6月までに施行され、国内に事業所がある場合は、新たに経済産業省の登録が必要になりました。

また、マルチ取引の場合、海外事業者との間で日本語は不可とか、事業者は海外法人であったり、海外法に準拠だったり、クーリング・オフは3日のみとか、問い合わせ窓口がないなどの解約トラブルが発生し、簡単には返金されないことが多い。

- まとめ：賢い消費者になるためには
- ・ネットで何か始めるときは、会社概要(企業名、住所、代表者、連絡方法、認可の有無等)を必ず確認する。
 - ・金融商品の場合、書面や画面で契約内容をよく確認して記録に残す。ネット販売ではそもそも契約書が存在しない。
 - ・問い合わせ窓口の有無、日本語対応しているか等を事前に確認する。
- いずれにしても基本中の基本は「必ずもうかる」は疑ってかかることである。(小汀政徳 記)

**島根学習センターから
行事のご案内**

- ・日程が変更になる場合がありますので、事前に申し込みをお願いします。
島根学習センター ☎0852-28-5500
- ・学生以外の方、途中から参加の方もOKです。お誘い合わせの上ご参加ください。
- ・セミナーは通常第2講義室(スティックビル4階)で行いますが、第1講義室(スティックビル3階)に変更になることもあります。事前にご確認ください。

●**だんだんセミナー**●

- ◆**「心理学から見える日常の面白さ、私たちの面白さ」** 講師:石井 徹 客員教授
8月14日(火)、9月18日(火) 13:30~15:00
- ◆**「生物よもやま話」** 講師:大島朗伸客員准教授
8月30日(木)、9月27日 15:30~17:00
- ◆**「古文で作文~創作から学ぶ古典文学~」** 講師:野本瑠美客員准教授
8月17日(金)、9月21日(金) 15:00~16:30
- ◆**「英語小説を愉しむ」** 講師:宮澤文雄客員准教授
8月18日(土)、9月15日(土) 15:00~17:00
- ◆**「みんなでつくる安全な医療」** 講師:宮本まゆみ客員准教授
8月21日(火)、9月11日(火) 15:00~16:30
- ◆**「健康づくりに活かす運動生理学」** 講師:原文貴客員准教授
8月9日(木)、9月13日(木) 14:30~16:00
- ◆**「英文法の基礎講座 英語塾」** 講師:原文貴客員准教授
8月9日(木)、9月27日(木) 11:00~12:30

●**だんだんサロン**●

- ◆**「作文の時間」** 講師:足立 悦男 島根大学名誉教授
8月19日(日)(第1講義室)、9月9日(日) 13:30~15:00
 - ◆**「おしゃべり会」** 講師:足立 悦男 島根大学名誉教授
8月19日(日)(第1講義室)、9月9日(日) 15:00~17:00
- ※作文の時間・おしゃべり会のどちらか片方だけでも参加できます。



~同窓会からのお知らせ~

①**会員名簿(第7版)をお届けしましたのでご確認下さい**

遅くなりましたが、第7版(7月)発行の会員名簿を総会資料と共に送付しました。記載内容は「入会申込書」における個人情報について「開示同意項目」のみの記載となっています。同意されない項目は未公表ですのでご了承下さい。なお、もし記載内容に誤りがございましたら、お手数ですが会長の竹下までご連絡下さい。

- ①あくまでも個人情報ですので、会員名簿の取り扱いには十分ご配慮下さい。
- ②住所・電話番号などご連絡先が変更となった場合は、竹下までご連絡下さい。
- ③FAX番号が未記載の方は、お手数ですが竹下までお知らせ下さい。
- ④ただし開示に不同意される場合は、その旨ご指示下さい。

②継続会員のみなさま

先般ご依頼しました引き続き同窓会員として登録のお願いを致しましたところ、該当する方64人中45人の方よりご継続すると回答頂きました。ありがとうございました。

つきましては、2018年より2020年まで3年分の会費として3000円が納入となります。

ご送金を済まされていない方はお手数ですが、ご入金をお願いします。送金先は本会報に同封していますので、ご確認の上至急ご送金下さい。よろしくをお願いします。

新会員のご紹介 (平成29年9月～平成30年5月)

○平成29年度1学期卒業

・生活と福祉コース 宮崎さん

○平成29年度2学期修士修了

・人間発達科学プログラム
金森さん

○平成29年度2学期卒業

・心理と教育コース 下田さん
・生活と福祉コース 濱田さん
・人間と文化コース 米山さん
・人間と文化コース 遠藤さん
・生活と福祉コース 山根さん

退会会員のお知らせ

3月に継続会員登録のお願いをしましたところ退会8人、意思表示なし11人で計19人の退会を役員会にて確認しました。

設立時よりこれまでのご支援に、心より感謝申し上げます。

訃報

柴田かおる さん(米子市)
(平成27年3月卒業)
謹んでご冥福をお祈り致します

◆同窓会活動日誌◆

(2018年1月～6月)

1月 09日(水) 会報“たたら”10号脱稿
13日(土) 入学説明会(浜田)
14日(日) 入学説明会(益田)
16日(火) 会報“たたら”10号発送
2月 04日(日) 入学説明会(松江)
08日(木) 英語塾開講説明会(松江)
18日(日) 入学説明会(出雲)
18日(日) 活動センター団体登録
22日(木) 学位記授与式打合せ
22日(木) 英語塾開講説明会
24日(土) 第26回役員会

3月 01日(木) 英語塾開講説明会
08日(木) 英語塾開講説明会
10日(土) 入学説明会(松江)
24日(土) 第27回役員会
31日(土) 2学期学位記授与式
31日(土) 卒業を祝う会開催
31日(土) 1学期入学者のつどい
4月 08日(日) 平成29年度会計監査
12日(木) 総会資料印刷製本
14日(土) 第3回東部地域イチゴ狩り
22日(日) 第11回公開講演会
22日(日) 第6回通常総会
26日(木) 第1回英語塾開講
5月 06日(日) 通常総会資料発送作業
10日(日) 通常総会資料発送
26日(土) 第28回役員会
第2回英語塾開講
26日(土) 同窓会連合会第21回総会
6月 09日(土) 市民活動センター団体登録
14日(木) 会報“たたら”取材活動
28日(木) 第3回英語塾開講

当面の行事案内

第平成30年度第1学期学位記授与式開催のご案内

日 時 平成30年9月30日(日) 11:00～12:00
 会 場 島根学習センター3階「第一講義室」
 対 象 平成30年度第1学期卒業要件を満たした学生
 ※後輩の皆さんの卒業を祝福するため、多数のご参加をお願いします

平成30年度第1学期“卒業を祝う会”開催のご案内

日 時 平成30年9月30日(日) 12:00～13:00
 会 場 島根学習センター4階「第二講義室」
 会 費 1000円(食事の準備上、事前にセンターにご予約下さい)
 電 話 0852-28-5500/FAX:0852-28-1800

第4回中部地域会員・学生交流会開催予定

日 時 平成30年10月7日(日) 予定(主催:島根同窓会・共催:学習センター)
 会 場 出雲市多伎町を予定 (桜井家のたたら遺跡を探索と食事会)
 対 象 同窓会員・卒業生・在学生・家族
 担 当 中部地区役員

消費者団体教育機能強化事業(島根県補助事業)【島根同窓会 社会貢献事業活動】

消費者市民社会の構築に向けて!

～地産地消と健康寿命を考えるつどい～

日 時 平成30年10月13日(土) 13:00～16:00
 会 場 市民活動センター(ステックビル)5階「交流ホール」
 主 催 島根同窓会・後援:学習センター・島根学友会
 内 容 講演と体験会
 ①「美味しまね認証」制度、食品表示制度、地産地消(環境問題)、
 健康寿命(食育、体育)の講演並びに体験会、
 ②健康度チェック(骨密度・肺活量・血圧・握力測定等)
 ご依頼 特に有資格者:看護師・教師・認定心理士の皆さんへご協力の要請

